

レジメンcode:	C53-13	備考
適応がん種:	子宮頸癌	
レジメン名:	Pembrolizumab+TP(PTX3時間)+Bv	
間隔:	3週間	

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	キイトルーダ	200	mg/body	点滴(30分)	d1
PTX	パクリタキセル(タキソール)	175	mg/m ²	点滴(3時間)	d1
CDDP	シスプラチン(ブリプラチン)	50	mg/m ²	点滴(2時間)	d2
Bv	アバスチン	15	mg/kg	点滴[*1]	d2

day1【ケモセーフ使用】

1) 生食	50ml	1 本	ルート確保	
2) キイトルーダ		200 mg/body		
生食	50ml	1 本		
	主管①	点滴	30 分	インラインフィルター必須
3) 生食	50ml	1 本		
	主管②	点滴	15 分	
4) ファモチジン	20mg	1 A		
デキサート	6.6mg	3 V		
ポララミン	5mg	1 A		
生食	50ml	1 本		
	主管③	点滴	15 分	
5) 生食	50ml	1 本		
	主管④	点滴	30 分	
6) パクリタキセル(タキソール)		175 mg/m ²	【ケモセーフ使用】	
ブドウ糖液5%	500ml	1 袋		
	主管⑤	点滴	3時間	インラインフィルター必須
7) 生食	50ml	1 本	フラッシュ	
8) ヘパリンNaロック	10ml	1 筒	ルートロック	

〈所要時間 約5時間30分〉

次ページあり

day2【ケモセーフ使用】

1) 硫酸Mg補正液			1 A
生食	500ml		1 袋
	主管①	点滴	2時間
2) 生食	500ml		1 袋
	主管②	点滴	2時間
3) アロカリス	235mg		1 V
パロノセトロン	0.75mg		1 V
デキサート	6.6mg		1 V
デキサート	3.3mg		1 A
生食	50ml		1 本
	主管③	点滴	30 分
4) シスプラチン(プリプラチン)			50 mg/m ² 【ケモセーフ使用】
生食	500ml	総液量650ml以下になるように生食を調製	
	主管④	点滴	2時間
5) マンニトールS	300ml		1 袋
	主管⑤	点滴	1時間
6) ソルラクト	1L		1 袋
	主管⑥	点滴	3時間
7) アバスチン			15 mg/kg
生食	100ml		1 本
	主管⑦	点滴	初回90 分
			2回目60 分
			3回目以降30 分[*1]
8) 生食	50ml		1 本
			フラッシュ
9) ヘパリンNaロック	10ml		1 筒
			ルートロック

〈所要時間 約11時間30分〉
 〈2回目 約12時間〉
 〈初回 約12時間30分〉

次ページあり

1) デキサート	6.6mg	1 V	
生食	50ml	1 本	
	主管①	点滴	15 分
2) ソルラクト	1L	1 袋	
	主管②	点滴	4時間
3) ラクテック	500ml	1 袋	
	主管③	点滴	2時間
4) ヘパリンNaロック	10ml	1 筒	
ルートロック			
〈所要時間 約7時間〉			

【文献】

国際共同第Ⅲ相試験【KEYNOTE-826試験 N Engl J Med 2021;385:1856-67(PMID:34534429)】

- *適応: 進行又は再発の子宮頸癌
- (臨床試験)
- *対象: 根治治療の適応がなく、化学療法歴のない(化学放射線療法としての投与歴は除く)進行又は再発の子宮頸癌患者
- *投与回数
 - ・TP療法は最大6サイクル(しかし、臨床的ベネフィットが継続し、投与が許容可能な患者は6サイクルを超える投与が許容された。)
 - ・キイトルーダは最大35サイクルまで投与された。
 - ・アバスチンは、疾患進行又は許容できない有害事象の発現まで投与可能とされた。
 - ・TP療法終了後はC53-14、C53-15:Pembrolizumab±Bv又はC53-16:Bv(Pembrolizumab投与継続不可の場合)へ移行する。
- *PD-L1発現の有無は問わない。
- 【キイトルーダ】
 - *甲状腺機能障害、下垂体機能障害及び副腎障害があらわれる事があるため、投与開始前及び投与期間中は定期的に内分泌機能検査を実施すること。
 - ◎検査セット登録あり: 場所 カルテ→(検体)→(特殊セット)→(免疫チェックポイント初回)(免疫チェックポイント2回目～)
 - *インラインフィルター(0.2～5μm)を使用する。
 - *調製時、又は希釈後に振盪により微粒子が生成される可能性があるため、バイアルは振盪せず、激しく攪拌しない。
 - *生食又は5%ブドウ糖に溶解する。同一点滴ラインを使用して他の薬剤を併用同時投与しない。
 - *希釈後、25℃以下で6時間以内または2～8℃で合計96時間以内に使用する。
 - *有害事象(肺、肝、内分泌障害、皮膚、胃腸、腎、神経関連など)対処アルゴリズムを参照する。
 - *臨床試験での検査スケジュール、投与延期または休薬基準を参照する。